

ておぼいことの尻尾を自らバクロした。また今度の佐藤中将事件で彼等はどんな態度をとつてゐるか？曰く曰佐藤中将は三十余年の向はとんと技術方面にのみ没頭して社会の事情にマツかつたからであるし、今は非常に悔悟してゐると宣傳し、その差別行為を必然的ならしめる教育と環境を与へた軍隊内の差別と軍事当局の放任を極力インバイレ、ナレアイで弁解しようと擁護してゐるでは無いのか。

そも、融和団体は、吾が全国水平社運動が起され、隣り間に異常なる発展をした勢に驚いて、翌大正十二年頃から全国水平社に對抗して組織されたものである。従つて凡ゆる政策と行動が吾々の反抗を去勢しギマンすることを経目的としてゐる。それは裏に一方に於ける、固い手口と併行して

「柔かい手口」の任務を分担する支配階級の「手先」たる「両頭の蛇」である。甘やかしく美はしげに見える融和団体の言葉の中には吾々を永久の正制下にツナギ留めんとする目的の裏つた毒匠の盤の手がかくされてゐることをハツキリ知りねばならない。

また彼等は融和村閭獎勵費や教育奨励費の名目で、吾々の地方改善費を納半命もカヌメ取つてゐる。彼等は改善費のことで恩を蓄せてゐるが、事實は大違ひだ融和庫の月給七割は融和の改善費をカヌメく喰ひつてゐるのだ。彼等が主唱する部落経済更生運動とまた一つ、吾々が生活を良くし文化を昂めるため、差別迫害の賠償として金額同庫負担による徹底的部落改良施設獲得斗争に立上るのを——部落の現状のドン底状態の原因が恰も吾々の全責

任に帰すものかの如く粉飾することによつて差別迫害の結果たることを抹消し——ギマンしやうとする陰謀に外ならない。吾々は常にかゝる反動融和運動の正体を大衆の前にバクロし徹底的に駆逐し、彼等のギマンの毒素の中から部落大衆を眞に解放のためには戦ふ吾々の側に奪還しなければならぬ。

実行方法
1. ありゆる斗争の場面、生談会、演説会等

第 一 節 演 説 案

早 愈 被 害 部 落 農 民 救 済 闘 争 に 関 する 件

提出 早 愈 被 害 地 区 候 議 会
説明 朝 倉

1. 第に事實問題を扱へて彼等の正体を大衆の前にバクロすること。
2. 單に脱退、ホイユツドや声ばかりの反対をなくして彼等の組織内部と相呼応し彼等の能力を粉砕すること。
3. 融和機關獎勵費を廃止して改善施設補助費に繰入れよ、有獎獎勵費のインキキ粉砕の要求を凡ゆる斗争に結びつけて戦ふこと。

以 上